



秋の検断屋敷まつり



材木岩公園内の検断屋敷周辺で10月3日、秋の検断屋敷まつりが開催されました。今回は踊りや太鼓などの多彩な催しに加え、下戸沢地区で養殖されたモクズガニを使った「カニハット汁」も提供されました。

11月6日には、農業祭でモクズガニ料理コンテストが開催されます。

クラシックカーが市内を快走



10月4日、国内で唯一・公認のクラシックカーレース「ラ・フェスタ・ミッレミリア」が今年も市内を通過。100台を超える名車と著名人が市内を駆け抜けました。小雨模様の天気にも関わらず、大勢の市民が熱い声援を送りました。

秋の交通安全運動



9月21日から30日にかけて秋の交通安全運動が市内一斉に行われました。運動初日の9月21日には、鷹巣地内で「交通安全人垣作戦」が実施され、プラカードで通行車両にシートベルト着用などを訴えました。

「体育のまち」白石の伝統行事

第76回市民体育大会



10月11日、白石川緑地陸上競技場を会場に、第76回白石市民体育大会が開催されました。

台風の影響で順延となった関係で、一部予定を変更して競技が実施されましたが、兄弟リレーや玉入れ競技、おしどり競争など、おなじみの種目で各地区が競い合いました。

今年の大会では、来年長野で開催される知的発達障害のある方のスポーツ大会「スペシャルオリンピックス冬季大会」成功に向けて、トーチラン（聖火リレー）も行われました。

がんばれ子どものオリンピック

東保育園で運動会



9月末から10月初めにかけては、保育園や幼稚園の運動会シーズン。東保育園でも9月25日に中央公民館の大ホールで運動会を開きました。

運動会のテーマは「子どものオリンピック」。園児たちが趣向を凝らした各種目で金メダルを目指しました。アトラクションでは東保育園オリジナルの「竹太鼓の乱れ打ち」が久しぶりに復活。ねじりはちまき姿の4・5歳児たちが太鼓に見立てた竹の筒をリズムに乗せて勢いよくたたき、盛んな拍手を受けていました。

テーマは「共に生きるくづくり」

東北ブロック・ユネスコ活動研究会

白石ユネスコ協会の主管で10月2日・3日の両日、東北各地のユネスコ関係者約260名が参加して、中央公民館などを会場に東北ブロックユネスコ活動研究会が開催されました。

日ごろ、国際交流活動や青少年の健全育成などに積極的に取り組む各協会が分科会に分かれ、活発な研究協議や情報交換が行われました。



さらに一般市民も加えた約600人の聴衆を前に、中尊寺貫首の千田孝信師による「非戦～清衡のこころ」と題した記念講演も開催されました。

10,000枚を目標に

ボランティアでおむつ仕立て

多彩なボランティア活動が続ける「ボランティアみなみの会」の皆さんは、昭和62年から毎年、さらし木綿で仕立てたおむつを不忘園に収めています。



今年もみなみの会では、不忘園から提供された100反と会で購入した20反の生地で、625枚のおむつを仕立て、不忘園に引き渡しました。

会員の皆さんが、「一日も早く治癒して元気になって」という願いを込めて仕立てたおむつは、通算で8,600枚ほどになったとのこと。

昔ながらの婚礼行列も再現

白石城で初めての結婚式



10月11日、佐藤漸さん（東町）と広島県出身の山本純栄さんが、白石城で初めての結婚式を挙げました。

結婚式に先立ち、武家屋敷から三階櫓まで華やかな婚礼行列も再現。甲冑武者を先頭に、紋付き袴姿の新郎と白無垢姿の新婦をはじめ約70人が城下を練り歩きました。



昔ながらに再現された婚礼行列

趣向を凝らした茶席を満喫

白石城茶会



9月26日、白石城や碧水園などを会場に、茶道各流派による恒例の白石城茶会が開催されました。

いずれの会場でも、月見に見立ててすすきを配するなど、季節感あふれる趣向を凝らした茶席が設けられ、しっとりとした小雨が風情をさらに増していました。

白石城三階櫓には、江戸千家の濃茶・点心席が設けられ、川上招雪・江戸千家若宗匠が見守る中、川井市長が席主を務めて参加者をもてなしました。

私が市長に就任した時、与えられた任務は、行政改革と企業の誘致、そして学校の建設でした。しかし、私は何よりも白石市民にかつてのプライドを呼び起こすことこそ急務であると考えました。

川井市長のせせらぎトーク



「市民のみなさんへ」

統一性のある個性とするためには、古典・現代を含めた文化の醸成が大切でありました。文化は本質的に、市民自ら紡ぎ出すものであります。しかし、それには長い年月と、お金を必要とします。まず、一流の文化人に指導者として来ていただき、文化の熟成に努めました。そして、最も留意しなければならなかったのは、財政の健全性でした。行革につぐ行革によって、メリハリのついた行政運営を行うことは、私の常に念頭にあったことでした。おかげさまで、白石城、スパシシユランド、キユーブなどの数多くの生涯学習施設は、繰上償還によって起債は返還済みであります。このような、ハードだけでなくソフトにおいても、先進的な取り組みをし、白石は歴史と文化の町として、県内外に広く情報を発信できるようにになりました。

長い長い二十年でした。そしてやっと今、私の任務は完了したと思っています。最後に、引退声明の記者会見で受けた質問にお答えしなければなりません。「市長として二十年間、あなたにとって喜びと、悲しみと、怒り、楽しみは何だったでしょうか。」との問いでした。喜びは、全国植樹祭に天皇皇后両陛下をお迎えしたことです。これは、白石始まって以来の慶事でした。御先導を努めながら、新幹線で直接白石に両陛下がおいでになったと喜びでいっぱいでした。それは、白石蔵王駅の誘致をはじめ、白石発展に心血を注いだ多くの先人の努力が、この瞬間に報われたことを知ったからです。悲しみは、前の助役高橋新太郎君を病で失ったことです。私の右腕として、自らを犠牲にして私を支えてくれた同志高橋新太郎君は肝臓ガンに侵され、周囲の願いも空しく、先を急ぐようにあの世に召されました。痛哭の思いであります。怒りは、白石川の上流に産業廃棄物処分場を作ろうとし、また、有機肥料と偽って、蔵王山ろくに産業廃棄物の汚泥を埋蔵した事件です。純真な市民を偽って自らの利益のために、我がふるさとの水や緑を汚染させようとしたこの行為への怒りは、事件が完全に解決

するまで燃え続けることでした。楽しみは、これからです。伊達政宗の詩を引用させていただきます。馬上少年過ぐ世平らかにして白髪多し残軀天の赦すところ 楽しみまざるは 是如何 私は学校を卒業してから十年、恩師の教えを守り研究室に戻ることを夢みて勉強してきました。恩師が大阪大学に去り、道が閉ざされたことを知った後、二十年間家業の発展に努めました。そして、論語の「五十にして天命を知る」年に市長に就任して二十二年、白石市のかじ取り役を務めさせていただき、いつか「七十にして矩を超えず」の年になりました。今こそ引退の時でありたい。市長の座も知事の座と同じくイバラの座であることに変わりはありませんでした。今後は、余生を十分に楽しみたいと思っています。万感の思いを込めて、老兵は、かつて戦場であった市政壇上から消え去ってまいります。ありがとうございます。